

パラスポーツ 理解深めよう



オンラインでダイのパラスポーツ競技
者の状況を聞く中嶋茜さん＝美浜町

日福大「金」中嶋さん講演

県内を中心に2026年に開かれる第20回アジア競技大会に向け、パラスポーツへの理解を深めようと、日本福祉大学(美浜町)で

競技者らの交流会があつた。元パラリンピック選手の講演もあり、オンラインを含めて学生や地元スポーツクラブ会員ら90人が聴き

入った。「障害があつても積極的にできるスポーツがあると知ったとき、世界が広がる感覚だった」。今月10日夜、母校の日福大で語ったのは、12年ロンドン・パラリンピックのゴルボール日本代表として金メダルを獲得した中嶋茜さん(31)。岐阜県中津川市出身で、中学生のときに盲学校でゴルボールを知り、大学4年生でパラリンピックに出場した。昨夏は東京パラリンピックが開かれた。「パラスポーツをさらに知つてくださつた人が、たくさんいる。障害はもちろん、年齢や性別、国も超えられる。スポーツを通じて、いろんな立場や違いを理解し合えるようになれば」と話す。

障害者スポーツに詳しい日福大の藤田紀昭教授は、スポーツ調査のデータなどを紹介。国内にいる成人の障害者で週1回以上スポ

ーツをしている人の割合は13年度の18・2%から21年度は31・0%まで増えた。だが成人全体は21年度が56・4%。「障害がない人に比べるとまだ少ない」

「ツをしている人の割合はある生活をすべての人に届けられるとい。私たちにできることは何か考えていいましょう」と呼びかけた。(上山浩也)